



生を受けたことのありがたさ

ジャン・ペンケレシ神父

毎朝、私の最初の祈りは詩編95編です。教会の朝の祈りの冒頭の祈りです。典礼聖歌32～35番にもあります。以下、7節まで書き写します。

- 1 主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。
- 2 御前に進み、感謝をささげ、楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。
- 3 主は大いなる神、すべての神を超えて大いなる王。
- 4 深い地の底も御手の内にあり、山々の頂も主のもの。
- 5 海も主のもの、それを造られたのは主。陸もまた、御手によって形づくられた。
- 6 わたしたちを造られた方 主の御前にひざまずこう。共にひれ伏し、伏し拝もう。
- 7 主はわたしたちの神、わたしたちは主の民、主に養われる群れ、御手のうちにある羊。今日こそ、主の声に聞き従わねばならない。

この詩編を唱えていると、神の偉大さと素晴らしい創造の業と神の愛、私を造られ存在をお与えになった「主」を、自然に、喜び祝う心になります。「主」は、神がモーゼに明かされた名です。ヘブライ語で「ヤウエ」と言われ、「私はある」初めもない終わりもない、大宇宙から最も小さいものまで万物を創造された永遠・全能の神です。

神は「深い地の底、山の頂、海、陸」を造り、その中にあるすべてのものも造られました。神の業をこのように宣言すると、心の中に神を深く尊敬するようになります。目が、人間が考えたり作ったりしたものだけにとられなくなります。

「わたしたちは主の民、主に養われる群れ」です。神は、毎日、私たちを養っておられます。その上、私たちは本当の神を知らされたので、神に愛されている民なのです。

7節に、神の声に従うように戒められます。命とすべては神から与えられたものです。み声に従わないと、命と恵の泉から離れていくので、不幸に落ち入り、死に向かいます。

ミサの中に、奉献文の前に「聖なるかな」があります。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。主の栄光は天地に満ち。天のいと高きところにホザンナ。」神は”聖なる”お方、永遠に存在し、優れた知恵で万物を考え、偉大な力で万物を造り支配しておられる、何一つ欠けていないお方、「聖なる」お方です。「万軍の主」は宇宙・大自然を秩序正しく動かしておられる、永遠・全能の神です。この言葉の意味に注意しながら歌っていると、キリストの受難と復活を記念する前に、まず、全能の神に目を向けて、誉めたたえます。自分の存在、大宇宙と大自然のために感謝し、神を賛美します。

私たちはキリストを信じて永遠の命をいただきました。その前に、神から頂いた第一の賜物は存在、生です。キリスト者は、毎日、それを思い出して、偉大な神に目を向けて、その偉大さを喜び、心から感謝するものです。